

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評 価	次年度の主な課題
中学 1学年	(1)和をもって学年経営にあたり、職員の共通理解のもと、学年目標の達成に努める。 (2)社会的スキルを身に付けさせるとともに、他を思いやる心を育て、集団意識の構築を図る。(3)生徒の実態把握に努め、各教科・領域、その他の面で生徒の自主性を育て、個性の伸長に努める。 (4)他学年・高校・家庭・地域との連携を密にする。	(1)授業規律の徹底、生活、学習環境を整備し学力向上につなげる指導を行う。 (2)日頃の生活を通してあいさつ指導、時間を守る指導を継続的に行う。 (3)道徳・総合学習・特活などを通して支持的風土づくりの推進。 (4)積極的生徒指導を通して、自他を大切にする心を育む。 (5)未知のものに対して、挑む・楽しむ 心を育てる。	A A A A B	○公共の場での正しい過ごし方や振る舞い方を指導する。 ○学ぶ意義を再確認し、基礎的基本的な知識や技能を育成する。 ○他を思いやる心を育て、好ましい人間関係を構築する。 ○他学年・高校・家庭・地域との連携を密にする。
中学 2学年	(1)和をもって学年経営にあたり、職員の共通理解のもと、学年目標の達成に努める。 (2)生徒の実態把握に努め、各教科・領域、その他の面での生徒の自主性を育て、個性の伸長に努める。 (3)個々の生徒に対する理解を深め、全職員協力して生徒支援にあたり、望ましい人間関係を確立する。 (4)他学年・高校・家庭・地域との連携を密にする。	(1)ペアやグループ学習等を通して、教え合い、学び合い、共に伸びる学習の雰囲気作りに努める。 (2)場に応じた言葉使いや、けじめのある行動等、日常的な指導に努める。 (3)家庭学習ノートや授業と連動した課題を提示し、自主的・自律的な学習習慣を育む。 (4)学年行事等、主体的に行動ができる場を設定し、リーダーを育成する	A A C B	○家庭学習ノートがないので、各教科で連携し課題を提示できるようにしていきたい。 ○コロナ禍で学年行事を持つことができなかつたので、次年度は生徒を中心に学年行事を企画し、リーダーの育成を図りたい。
中学 3学年	(1)和をもって学年経営にあたり、職員の共通理解のもと、学年目標の達成に努める。 (2)生徒の実態把握に努め、各教科・領域、進路、その他の面で生徒の自主性を育て、個性の伸長に努める。 (3)個々の生徒に対する理解を深め、全職員協力して生徒支援にあたり、望ましい人間関係を確立する。 (4)他学年・高校・課程・地域との連携を密にする。 (5)総合的な学習の時間を活用し諸活動の充実を図る。	(1) 計画的に学習できるように自学自習の力を培い、教え合い、共に伸びる学習の雰囲気を作る。 (2) 将来の生き方を見据えた主体的な進路選択能力や、自己実現に向けて努力する力を育む。 (3) 自分を大切にすると共に、相手の立場を認め、思いやりの心や協力する態度を育む。 (4) 公共の場での適切な過ごし方を判断する力と、実行する力を養う。 (5) 生徒理解に努め、教育相談の充実を図り、家庭との連携を密にする。 (6) 集団生活を通して、組織（社会）の一員としての自覚を高めさせる。	A A A A A A	○「キャリアパスポート」の取り組みを計画的に実施することができなかつた。年間計画に時間を確保する。 ○高校の各部と協力・連携し、中高一貫としての進路指導、生徒支援に努める。

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目	本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
高校 1学年	(1)勤怠・身なり指導の統一徹底を図る。	(1)学年で意思統一をし、生徒支援部と連携して段階指導を徹底する。 (2)服装容儀のその場指導を徹底する。定期的に学年集会を行う。	A A	
	(2)美化意識を高め、清掃の徹底を図る。	(3)教室内の整理整頓及び戸締まりを徹底する。		
	(3)生徒の実態を把握し、基礎学力の向上を目指す。	(4)HR 担任と教科担任、各係との情報交換に努める。	B	
	(4)適切な進路指導を行う。	(5)進路指導と連携して、早期に進路に対する意識を高める。	A	
	(5)学級活動・学校行事に積極的に参加する。	(6)学校行事等に学年全体で取り組む。 (7)基本的な学力の定着に向けて、学年全体で取り組む。	B A	
高校 2学年	(1)①家庭学習の習慣化 ②朝学の自主的な取り組み	①各教科担任と連携し、授業で指導した課題へ取り組ませる。「今leftrightarrow未来手帳」等の活用で、生徒の学習状況を確認。 ②8：40からは「スタート」ということを意識させる。クラスのリーダーの自主的な呼びかけの促し。（朝学開始のチャイムが鳴る前の勉強用具の準備、準備を始めていない生徒への声掛け、準備をはじめずに廊下でたむろしている生徒への注意を、生徒どうしで注意できる雰囲気づくり）。 ③教科担任と連携し、勉強会・補習などを計画する。	B B B	・修学旅行を行うことができなかつたので、令和3年度は生徒・保護者が希望するのであればできるだけ希望に添えるようなんとか実施してあげたい
	(2)①早期の希望進路決定、明確化 ②希望進路実現に向けての早期からの取り組み ③3年0学期における取り組みの充実	①・就職、進学など、各ガイダンスへの参加を促す ・進路室利用の促進 ・三者面談（必要であれば、その事前の個人面談） ②希望進路実現のために必要な教科等（就職であれば必要な“力”など）を確認・認識させ、その取り組みとして必要なことを促す。 ③自己の進路をより具現化し、希望進路実現へ向けた動きを活性化させる。	A B B	

	(3)①学習環境の整備	①服装を常に整え、外見の落ち着きから内面の変化を促す。(常に面接合格の身なり) ②朝、帰りの SHR を利用しての指導。クラスのリーダーの自主的な呼びかけの促し。(机の上には学習用具以外を置かない、足元に飲み物等を置かない。棚の上のペットボトル、ブレザー等制服を置いたままの生徒へ注意指導) ③個人ロッカーの整備		
	②勤怠状況の良化	④長欠懸念者等、勤怠状況の悪い(もしくは悪化しそうな)生徒に対し、保護者との連携も含め、早期に対応する。また、学年会での情報交換も行い、共通で理解する。		
	(4)①リーダーの育成 ②体験型活動(修学旅行)への積極的参加を促す。	①HR 役員や学年会を通して、リーダーの育成と、生徒の主体的な姿勢を促す。 ②修学旅行の参加を促し、その体験から個々人の豊かな感性等資質を育む。		
高校 3 学年	(1)進路決定のための指導強化	(1)生徒支援部との連携を密にし、全員で足並みを統一した指導を行う。 (2)教室内の学習環境の整備の徹底。特に机の上は整理整頓を心がける (3)オープンキャンパス、進路ガイダンス、各種説明会等への参加を通して進路の早期決定を促す進路指導の充実を図る。 (4)一般・放課後・夏期講座への受講を通して、進学・就職への早朝からの準備を行う。	A A B A	・勤怠不良の生徒への指導 ・進路決定者の中には気のゆるみがみられる生徒がいた。担任をはじめ、授業担当者が根気よく声掛け等を行い、緊張感を持続させる必要がある。
	(2)基礎的・基本的な学力の定着	(5)スタディーサポートや模試及び支援システムのデータを通して、面談資料として活用し、個に応じた指導の充実を行う。	A	
	(3)基本的生活習慣の確立	(6)3 学年と各部・各教科との情報交換を密に行う。	A	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目		本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
教務部	総務	(1)各部・各教科・各係との連携を図り、円滑な校務運営を目指す。	(1)各部・各係との事前の打ち合わせ等を密にし、学校行事、会議等の調整を行う。	A	・定数確保 ・学校説明会実施の工夫 ・中学との更なる連携
		(2)近隣校の中学生に対する学校説明会の企画・実施に努める。	(2)オープンスクールの企画・実施及び、広報に努める。行事	A	
		(3)中高一貫教育の円滑な運営に努める。	(3)中学部・各部・学年と協力、工夫をすることで年間の授業日数・時数を確保するとともに、ステージフェスティバルの成功を期して、企画・実施する。	A	
行事		(1)学校行事の精選に努め、年間の授業日数及び時数の確保に努める。	(1)中学部・各部・学年と協力、工夫をすることで年間の授業日数・時数を確保するとともに、ステージフェスティバルの成功を期して、企画・実施する。	B	
システム		(1)校務支援システムと校内 LAN システムを活用し、職員・生徒の支援に努める	(1)校務支援システムの円滑な運用及びホームページの更新を適時行うよう努める	A	
教科課程		(1)新学習指導要領や学校・生徒の実態に即した教育課程の編成に努める。	(1)本校の生徒の実態及び特性を考慮し、各教科と検討・調整する。	B	・R4年度の新教育課程の編成 ・総探の更なる充実
活動		(1)PTAの協力体制を密にするよう努める。	(1)PTAの活性化のための活動を企画・実施する。	A	
時間		(1)時間割、定期考查等の円滑な運用に努める。	(1)各教科・部署との連携を強化し、定期考查や日々の時鐘の設定を実施する。	A	
学籍		(1)単位未履修懸念者、未修得者に対する指導に努める。	(1)各教科との連携を通して単位未履修懸念者、未修得者に対する指導を強化する	A	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目		本年度の努力目標	具体的計画	評価	次年度の主な課題
生徒支援部 生徒指導	(1)教育活動全般において中高連携及び各部・学年との協力体制を確立する。 (2)諸規律を守り、本校生徒としての自覚の促進に努める。 (3)自主的活動を支援し、有意義で楽しい学校生活を送るための環境作りに努める。 (4)家庭・地域社会・関係機関との連携を強化する。 (5)中高生徒の動向に関する情報の共有化を図り、円滑に生徒の支援を進める。	(1)学校教育活動全般において、生徒指導的役割を充分に果たす。		B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響でほとんどの行事が開催することができなくて残念だった。コロナが収まるのを願いつつも、開催の仕方を工夫する必要がある。 もっと色々な部署との連携を密にする。
		(2)服装容儀・勤怠に関して、年間を通し計画的で一貫した指導を行う。		A	
		(3)時間を守る等の規律ある人材を育成する活動に努め、部活動の活性化を図る。		A	
		(4)PTA、関係機関の取り組みを支援し協力体制を整える。		B	
		(5)週一回の支援部会を中心に随時情報交換の機会を設け、中高連携を密にする。		B	
中高生徒会	(1)生徒一人ひとりの自主性が育つ活動にする。 (2)中央委員会、専門委員会、および学級との連携を強める。 (3)普段から中高生徒会が協力するような体制を構築する。 (4)各種部活動との連携を図るために、部長会を活用する。	高校	(1)リーダー研修などで生徒会役員のリーダー性を育成し、中央委員会を定期的に行い、生徒の自治能力を高める。	D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会専門委員会の活動を充実させていきたい。 密にならないような取り組みを企画していきたい。
			(2)HR・中学校との連携を密にし、生徒会行事の計画的運営を行い、活性化に努める。	C	
			(3)生徒会広報「太陽風」の内容の充実と定期発行に努める。	A	
			(4)部長会と中央委員会の連携を強化し、学校行事の活性化に努める。	C	
		中学	(1)中央委員会で、学校生活に関する話し合いを充実させる。	A	
			(2)専門委員会で、月目標の具体的実践・評価を行う。	B	
			(3)高校との合同行事は、連携を密にして計画的に行う。 ①おそうじ大会②リーダー研修③ステフェ④各種式等	C	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目		具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
生徒支援部	環境美化	(1)諸施設設備の管理・運営・保全に努める。 (2)諸施設設備の有効な利用を図る。 (3)校内の緑化、庭園の維持、推進を図る。 (4)校内外の美化、清掃の徹底を図る。 (5)生徒・職員共に、緑に親しむ。	(1)美化委員会活動の活性化 (2)芝生の管理と樹木の剪定、追肥の実施 (3)清掃用具・施設設備の点検 (4)庭園の管理とプランター等を利用しての花いっぱいの緑化活動 (5)室内スリッパ使用の徹底 (6)環境美化に関する広報活動（緑風）の充実	A A B A A B	
保健教育相談	(1)病気の早期発見、早期治療を目的に健康診断を実施し、個々の生徒に応じた保健指導を行う。 (2)教育相談活動を通して生徒のより深い理解を図り、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。	(1)定期健康診断を実施する。 (2)学校医・学校歯科医と連携した健康相談及び保健指導を実施する。		A A	
	(3)健康安全に関する啓発を行う。 (4)救急体制を整える。 (5)中高の連携をより密にする。	(3)スクールカウンセラー、関係機関、職員、保護者等と連携して教育相談を進め、チームで支援する。 (4)教育相談アンケートを実施する。 (5)生徒が自発的に来談できるよう工夫する。		A A A	
		(6)保健だより、相談だよりを発行する。 (7)「性・エイズ」「薬物乱用防止」「思春期」について統一LHRを実施する。		A A	・コロナウイルス感染症予防のため、「薬物乱用防止」のみを実施
		(8)救急法講習会を実施する。		-	・コロナウイルス感染症予防のため未実施。
				B	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目	具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
事務部	(1)光熱水費の削減に努める。 (2)快適な学習環境、執務環境を整備する。 (3)中高合同行事を充実させる（PTA）	(1)計画的かつ合理的な予算執行を行う。	A	・令和3年度は追加予算が見込めないため（コロナによる税収減のため）予算枠で調整し、効率的な予算配分・執行を行う必要がある。
		(2)事務職員研修への積極的参加と事務職員相互の研鑽に努める。	A	・分掌ごとの研修への参加、学校間の相互点検を行うなど、資質向上に努めることができた。
		(3)校納金（学校徴収金・団体徴収金）の徴収体制を確立し適切な予算執行に努める。	A	・情報の共有を図り、徴収並びに執行がスムーズに行うことができた。
		(4)地域行事等に積極的に参加する。	-	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかつた

評価項目		具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
各教科	国語科	(1)基礎・基本の充実	(1)生徒の実態に合わせた習熟度別授業を展開し、個々の生徒の学力向上を図る。	A	・校内弁論大会を例年のように開催することが可能かどうか。
		(2)適切に表現する能力を養い、伝え合う力を向上させる。	(2)弁論大会への中高連携した積極的な取り組み。	-	
		(3)言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めさせる。	(3)TT授業による語彙力の強化及び、漢字検定受検の奨励。	A	
			(4)読書活動の推進。	A	
			(5)諸コンクールへの応募の奨励。	B	
			(6)指導内容・技術向上の為、科目別・学年別授業担当者の連携を緊密にする。	A	
地歴公民科		(1)年間指導計画に基づく授業実践	(1)ICT機器を用いた授業展開	B	・リモート授業の準備はしているが、実際の実施の際の課題が残る。 ・主権者教育に関する情報提供をおこなう。
		(2)地域素材の教材化など、生徒が興味・関心をもつ授業実践	(2)討論・発表などのアクティブラーニングの実践	B	
		(3)教材研究の充実と、生徒がわかる授業の展開	(3)主権者教育に関する情報提供	B	
		(4)選択制授業の取り入れ、生徒個人個人に応じた指導の工夫	(4)受験対策講座の充実	A	
		(5)中高職員間の情報交換の充実と授業の連携	(5)週1回の教科会（中高合同）の開催	C	

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかつた

評価項目		具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	
各教科	数学科	(1) 中高の連携を通して、目標を持ち主体的に学習する生徒の育成を図り、学びの質を向上させる。 (2) 確かな学力を身に着けさせるために、数学における基礎的、基本的な知識・技能を徹底的に反復し習得させる。 (3) 生徒個々に応じた希望進路を実現できるよう支援する。	(1) 中学1・2年生はTT授業で、中学3年生は中学・高校の職員で習熟度別授業を展開する。 (2) 定期考査ごとに補習授業を行い、既習事項の定着を図る。	A A	○今年度同様、教科で連携を取りながら生徒の進路に応じた授業を行っていきたい。 ○模擬試験の結果等を参考に、演習や週末課題等の内容を工夫していきたい。	
		(1) 実験・実習の充実を図る。 (2) 個々の進度にあわせた学習支援を行う。	(3) 習熟度別授業をはじめ、選択授業で生徒の進路に応じた授業を展開する	A		
			(1) 野外実習の実施。	-	・新型コロナウイルス感染症の影響で、野外実習や科学技術振興事業へ生徒を参加させることができなかった。	
			(2) 生徒の実態にあった教材教具の開発。	A		
理科	理科		(3) 生徒との密なコミュニケーションを図る。	A		
			(4) 単位習得を目指して補習等の対策を行う。	A		
	(1) 自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得することが出来る (2) 運動の実践を通じて公正、協力、責任などの態度を身につける (3) 運動種目の特性を理解し、その特性に応じて自己やグループに適した課題解決を目指す (4) 各種の運動を適切に行い、その特性に応じた技能を身につけ生涯スポーツに繋げる	(1) 集団行動で機敏な行動を定着させる。	B	・コロナ禍で様々な行事が縮小される中、全職員で工夫して体育祭を成功させたい。		
		(2) 各種目における実態把握を行い実態に合った授業の工夫を行う。	A			
		(3) 種目に応じて個人指導や学び合いを行う。	A			
		(4) 安全に運動が行えるよう施設や用具の管理徹底。	A			
		(5) 体力向上を目指し、生涯スポーツに繋げる	A			

令和2年度与勝高等学校・与勝縁が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目		具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
各教科	芸術科	[音楽] (1)歌唱や器楽演奏を通して、読譜力や奏法を身につけさせ、表現力を伸ばす。 (2)授業の充実を図る。	(1)使用する楽譜において基礎的事項を確認し、筆記試験や演奏発表を実施する。 (2)クラスの状況に即した題材を取り入れ、生徒の意欲を盛り上げる。	A A	・歌唱授業が思うようにできなかつたので、次年度は歌唱授業を進めていきたい。器楽においては幅広い活動ができたと思う。 ・コロナの影響で作品展示がやりづらかったが次年度は様子を見ながら展示を行いたい。
		[美術] (1)創造活動を通して感性を高め、表現と鑑賞の能力を伸ばす。 (2)各種コンクールに取り組み、作品制作の意欲向上を図る。	(1)題材において、生徒個々が積極的に創造活動に取り組める指導の工夫。 (2)作品の発表・展示を隨時行い、作品制作への意欲を高めさせる。	A B	
		[書道] (1)書体や及び書道史を理解させ、鑑賞力・創造力を養う。 (2)各種コンクールに取り組み、作品制作の意欲向上を図る。	(1)生徒個々が積極的に作品作りに取り組める指導の工夫。 (2)作品の発表・展示を隨時行い、作品制作への意欲を高めさせる。	B B	
	情報科	(1)教材の工夫と実習の充実 (2)各種検定の実施	(1)実習の形態を工夫（グループ学習を活用） (2)放課後講座等で検定に対応する。	C A	○SNSのトラブルが見られた。モラル指導の強化に努めたい。
		(1)実験・実習の充実 (2)授業や教材の工夫、研究を行う (3)知識と技術の習得に努める	(1)課題解決学習等の導入 (2)教育機器を活用した授業の工夫、研究を行う (3)食物調理技能検定を実施し、技術の定着を図る (4)各種研修に参加し、指導力の向上を図る (5)アクティブラーニングの実践	A A A A	・コロナ禍でも行える少人数・短時間の実習内容の検討が必要。 ・

令和2年度与勝高等学校・与勝緑が丘中学校（学校自己評価）

評価段階 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかつた D：達成できなかつた

評価項目		具体目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
各教科	英語科	(1)語彙力増加の指導の統一徹底を図る。	(1)定期的に英単語テストやコンテストを実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年進行について、2極化の傾向が見られるため、階層及び中間層の基礎学力の定着を図る。 生徒が英語で発信する機会を多くするための手立てを工夫する。 中高6年間の指導法や指導体制を確立する。 CALL教室の効果的な活用を工夫する。
		(2)授業や教材、評価方法の工夫・研究を行う。	(2)英語を活用した授業展開に努める。 (3)ALTや中高間の連携を深め、効果的な授業の取組を行う。	B A	
		(3)各種試験に向け取り組みを強化する。	(5)留学や各種コンテストに積極的に取り組ませる。 (6)英語検定を積極的に受験させ、合格者を増やす。	B A	
		(4)大学入学共通テスト英語の4技能向上の指導研究をする。	(7)受験等の対策講座や授業等での指導の工夫を図る。	A	
			(8)各種研修に参加し指導力向上を図る。 (9)2年生特進クラスを対象にGTECを実施する	A	